

過疎指定を追い風に

～第2貸工場ができたわけ～

金山町は昭和55年度から平成元年度までの10年間は過疎地域の指定を受けていました。それ以降、人口減少のスピードが緩やかだったこと、若年人口の比率が高いことなどから過疎地域から外れていました。

その後、過疎地域自立促進特別措置法の一部改正による新たな基準が設けられ、平成26年4月1日に過疎地域の追加指定を受けました。

この法律改正において、市町村が企業の誘致もしくは起業の促進のために貸工場及び貸事務所を整備することが可能となりました。

『人口減少対策が大きな課題となっている中で、この新たな制度は、使い方によってはチャンスとなる——』

町はそのように考え、特に若者の定住に向けた雇用の場の確保を目指しました。そして、企業誘致や工場立地を実現するために、国からの財政支援が受けられる過疎対策事業債を活用。平成27年度に建設した第1貸工場（山形アキレスエアロン株）が平成28年1月から操業）に続いて、今年度は第2貸工場を建設しました。

- ①金山杉をふんだんに使用した第2貸工場『米の娘家』
- ②③小上がり・テーブル席は2つずつ
- ④カウンターはもちろん金山杉製
- ⑤米の娘ぶたカレーなどの加工品も取り揃え



いま、金山の餃子が

スゴい！

米の娘家、ついにオープン！

11月25日、『金山町第2貸工場』の竣工式が執り行われ、関係者40名が出席し、安全に事故もなく貸工場が完成したことを祝いました。

貸工場を使用するのは(株)大商金山牧場。

「立派な工場の完成に感謝する。直営の加工販売所を持つことは、弊社が金山町に進出した8年前からの願い。関係者の方々の大きなサポートに感謝すると同時に、責任の重さを感じている。雇用の創出などを通して、地域の振興に貢献していきたい」と小野木重弥代表取締役社長は話します。

(株)大商金山牧場では、自社で生産した豚肉と金山産の農産物を使った加工品を製造・販売する施設としてこの貸工場を使用します。店舗名は『米の娘家』。馴染みのあるこの店名は、当社の代名詞であるブランド豚『米の娘ぶた』からきています。晴れて12月9日にオープンを迎えました。

ところで、加工品といっても様々。この貸工場では何を製造するのでしょうか。豚肉にキャベツやニラ…。そう、実は餃子なんです。金山産品をふんだんに使った『かねやま餃子』については次ページで詳しく紹介します。

